

第3章 子どもを支える学校づくり

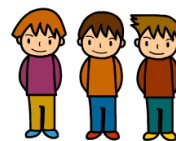
基本目標6 四日市ならではの



地域資源を生かした教育の推進

四日市ならではの地域資源を教育に生かすことにより、ふるさと四日市に誇りと愛着を持ち、社会の一翼を担う人材を育成するための教育を推進します。

- 1 歴史・文化・自然を活用した教育の推進
- 2 高度なものづくり産業と連携した教育の推進
- 3 公害対策モデル都市としての環境教育の充実



1 歴史・文化・自然を活用した教育の推進

◆ ねらい

四日市市は豊かな歴史と自然を背景に、様々な文化が育まれ、現在も数多くの文化財や伝統芸能などが継承されています。本市のもつ地域資源を教育に活用することにより、ふるさと四日市に対する誇りと愛着を育むとともに、地域とともにある特色ある学校づくりを推進します。

◆ 取り組み指標とその評価

取り組み指標	現状値 H27	H28	H29	H30	H31	H32	目標値
博物館・久留倍官衙遺跡及び地域の歴史・文化・自然等を学習教材として活用した学校数(校)	小38校 中22校	小38校 中22校					全小中学校 (60校)

市内全小・中学校において取り組みを進めることができました。引き続き、本市のもつ地域資源を学習教材として活用できるよう、働きかけていきます。

(1) 博物館の活用

常設展「時空街道」、特別企画展「昭和の暮らし」で、体感的な学習支援展示を行っています。

◆ 具体的な施策の現状と課題

〈「常設展、学習支援展示」・「子ども博物館教室」〉

常設展「時空街道」では、原始・古代から江戸時代までの四日市市のあゆみを原寸大再現で展示し、観覧者自らの発見や思考の深まりを重視する体感的な展示手法を用いることで幼児・児童・生徒の各学習段階に応じた見学学習を行うことができます。

また、年間を通して実施している学習支援展示では、子ども博物館教室「まが玉をつくろう」や「四日市空襲の話を聞こう」等と連携することで、学習効果の向上を図りました。



四日市空襲と戦時下の暮らし展

四日市空襲体験者による解説

〈特別企画展「昭和の暮らし 昭和の子ども」〉

小学校3年生に向けての特別企画展「昭和の暮らし」では、博物館を単に知識を得る場にするのではなく、効果的な学習の場として各校が利用できるよう、事前打ち合わせやワークシートの提供を行い、展示会場内には学習用のスペースを用意しました。見学時、子どもたちは、学習に対する意欲的な姿勢を見せ、自ら発見し思考する学びを行っていました。

特別企画展	
小中以下の子どもの入場者数	
小中学校、見学 (うち市内小中学校)	41校 2,743人 (33校 2,220人)
保育園・幼稚園 (うち市内保育園)	3園 123人 (2園 66人)
学校見学を除く、 小中以下の入場者数	949人

◆ 今後の方向性

- 特別企画展見学後のアンケートでは、児童生徒の学習意欲を高める工夫や体験的な活動場面を増やして欲しいといった回答が多くみられました。学校側の考える収蔵資料の利用方法と博物館の役割である資料保存の違いなど、共通理解を図りながら博学連携を進めます。
- 四日市空襲や昭和の四日市を知る方々の高齢化が進んでおり、貴重な体験や見識を教材化することができるよう、資料の収集・保存を進めます。
- 常設展示である楠歴史民俗資料館の活用を進めます。

(2) プラネタリウムの活用

投影される星の数で世界一に認定されたプラネタリウムを使って、体験的な学習投影を行っています。

◆ 具体的な施策の現状と課題

<中学校を対象とした学習投影>

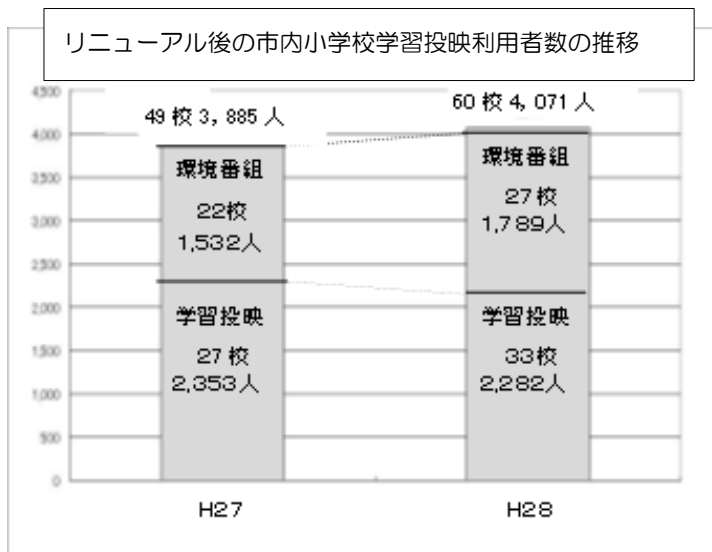
- 「四日市公害と環境未来館」と連携して、環境学習を取り入れたプラネタリウムの観覧を市内全中学校で実施しています。
- 中学校3年生向けの新たな投影プログラムを取り入れ、学校との事前打ち合わせをしながら学校の実態に合わせた投影を行っています。



環境学習プログラム	0校 (0人)
天文学習プログラム	21校 (2, 772人)

<小学校を対象とした学習投影>

- 市内の小学校の校庭から見た星空を忠実に再現し、観察を重視した体験的な学習投影を実施しています。
- 「四日市公害と環境未来館」と連携し、小学校5年生を対象に環境番組を投影しています。



＜その他 移動式プラネタリウムを活用した授業＞

○ 担任と天文係職員がTTで授業を進めました。また、クラス単位の投映であるため、生徒とコミュニケーションをとりながら授業をすることができました。

◆ 今後の方向性

○ 今後も学校と連携しながら学習効果の高い投映を行っていきます。そして、学校で学習した知識を活用しながら、自ら学び、問題の解決方法を見つけていく力を育成していきます。

○ 移動式プラネタリウムを活用した授業では、移動式プラネタリウムの特色を生かしたプログラムを検討していきます。

○ 「四日市公害と環境未来館」と連携し、環境学習を取り入れた投映を進めます。そして、様々な視点から環境問題について考え、より学びを深めることができる学習投映を検討していきます。



移動式プラネタリウムでの授業

(3) 久留倍官衙遺跡の活用

◆ 具体的な施策の現状と課題

久留倍官衙遺跡を通じて、四日市の歴史を学ぶとともに、身近な遺跡が壬申の乱や聖武天皇の東国行幸の舞台の一つであったことを知り、四日市ならではの豊かな地域資源を生かした授業づくりができるよう活用計画を作成しました。

平成28年度には、平成29年度から授業での活用を進められるよう、社会科担当者を対象にした「久留倍官衙遺跡学習プログラム説明会」、新規採用者対象に「久留倍官衙遺跡講座」、全教職員対象に「久留倍官衙遺跡講座③」の3講座を開催しました。久留倍官衙遺跡の歴史的な位置付けを理解し、授業に活用していけるよう、研修内容を工夫しています。

整備を進めている久留倍官衙遺跡が学校教育の場で積極的に活用できるように、具体的な活用方法を三泗小・中社会科教育研究協議会等に紹介しています。

平成28年度 講座名	参加人数
久留倍官衙遺跡学習プログラム説明会	59名
新規採用者 久留倍官衙遺跡講座	12名
久留倍官衙遺跡講座③	15名

＜学校との連携の強化＞

「久留倍官衙遺跡学習プログラム」において、小・中学校での活用例を紹介することに加え、市が所蔵している出土遺物の貸し出しを行っています（平成28年度4校）。子どもたちが本物の土器などに直接触れることにより、使われていた時代を実感し、より豊かな授業展開を図ることができます。また、それぞれの学校の学習計画に応じて、課員による出前授業も行っています。平成28年度は久留倍遺跡の土器など

出前講座の様子



を使って久留倍遺跡についての授業を行いました。貸し出し希望の学校がさほど多くはないため、今後とも、さらなる活用に向けて情報を発信していきます。

＜発掘展 ～夏休み！子どものための考古学～ の開催＞

地域の遺跡について知ってもらうために、夏休み期間中に子どもを対象として、市立図書館2階展示コーナーで市内で出土した土器などの展示を行いました。図書館で開催する利点として、図書館の協力により歴史に関連する図書コーナーを併置し、地域の歴史への興味を発展させ、自ら学ぶ姿勢を育てることにつなげています。また、展示品と関連させたワークショップ2回（「木のしおりに文字を書こう！」「消しゴムはんこをつくろう！」）を開催しました。

◆ 今後の方向性

- 地域の歴史を学ぶことによって、生まれ育ったふるさとに誇りと愛着をもつ「心豊かな“よっかいち人”」を育成することにつなげていきます。整備を進めている久留倍官衙遺跡を、学校教育において積極的に学習教材として活用できるよう、学校との連携を深めていきます。また、久留倍官衙遺跡の情報発信に努め、認知度を高めていきます。

(4) 自然体験の充実

◆ 具体的な施策の現状と課題

- 全小中学校が自然教室を実施し、カヤックやスキー、ハイキングや自然散策等、豊かな自然の中で普段味わえない活動を実施しています。また、友だち同士助け合うことや協力することの大切さを学べるような活動を取り入れています。中学校では5校が冬季にスキー実習を中心とした活動を実施しました。

自然教室での実施プログラムと実施校数（鈴鹿青少年センター含む）

	御在所岳登山	雲母峰登山	入道ヶ岳登山	御在所岳スキー	ハイキング	キャンプファイヤー	野外炊事	OL・ウォークラリー	ナイトハイク	早朝ハイキング	自然散策	アスレチック	星座観察	搾乳・バター作り	茶摘	創作活動	里山保全	ネイチャーゲーム	カヤック
小	3	0	0	0	15	38	38	22	8	11	15	2	1	4	0	5	9	0	23
中	0	0	0	5	4	18	18	15	1	0	3	3	1	3	0	13	3	0	2

- 実施後の教職員アンケートからは、「豊かな自然の中で、仲間と協力し合いながら活動をすることができた」「ルールを守ることや集団行動の大切さ、協力して物事を行うことから生まれる達成感を養うことができた」等の多くの成果が見られました。
- アウトドアセミナー「(内容) カヤック体験・飯盒炊さん」を教職経験の浅い教員を対象に行いました。

平成28年度の施設利用状況

利用施設名	小学校（小5）	中学校（中1）
四日市市少年自然の家	38校 2611名	17校 1720名（2泊）
鈴鹿青少年センター		5校 1003名（2泊）

※ 四日市市少年自然の家での利用定員の制限を超えた中学校5校については、鈴鹿青少年センターを利用しました。

◆ 今後の方向性

自然教室については、どのような力を子どもに付けさせたいのかを再確認し、発達段階や子どもの実態に応じた、より有効な活動内容等を考慮する必要があります。

また、夏季休業中に若手教員対象の野外活動に関する研修会を実施するなど、教員の指導力の向上に努めます。

（5）文化・芸術体験の充実

平成28年度各学校・園での「芸術鑑賞教室及び文化芸術体験」実施状況

項目	幼稚園 (23園中)	小学校 (38校中)	中学校 (22校中)	達成率 (%)
全ての学年で、芸術鑑賞の機会を年1回以上もつ	23園	38校	11校	86.7%
わが国や郷土の伝統音楽・文化体験の機会をもつ	23園	29校	22校	89.1%

- 「文化芸術による子どもの育成事業」や「能・狂言教室」など、国や四日市市の文化芸術体験事業を積極的に活用しています。
- 我が国や郷土の伝統音楽・文化を体験する活動として、音楽科で箏や三味線の演奏体験、能狂言体験などが実施されています。
- 10校以上の小学校が万古焼体験を実施し、郷土の伝統文化に直接触れる体験学習を行っています。

（6）地域の歴史・文化を体験する活動の推進

総合的な学習の時間等における地域の歴史や文化に関わる学習の実施状況

項目	小学校 (38校中)	中学校 (22校中)	達成率 (%)
総合的な学習の時間・生活科や社会科をはじめとする教科の指導において、地域の歴史や文化に触れる活動や体験学習を実施した学校	38校	19校	95.0%

主な活動内容

小学校	万古焼体験、鯨船祭りや地域の祭り調べ、茶摘み体験、昔の暮らしや遊びの体験、戦争体験の聞き取り、地域めぐり、郷土調査等
中学校	地域の歴史・史跡・名所等の調べ学習や見学、福祉施設等の見学や体験活動、万古焼体験等の体験学習、茶道、浴衣着付け体験等

- 社会科や総合的な学習の時間において、昔の暮らしについての聞き取りや遊び体験をしたり、自分の住む町の歴史・史跡の調査や文化体験をしたりする学習が進められています。平成28年度、中学校において実施校が少し増えました。今後も年度当初から地域教材を活用した体験的な活動を、総合的な学習の時間等の年間計画に位置付けておくことが必要です。

(7) ものづくり・生産体験の推進

ものづくり・生産体験活動実施学校園実施状況

項目	幼稚園 (23園中)	小学校 (38校中)	中学校 (22校中)	達成率 (%)
地域の地場産業や農業に触れる活動を実施した学校園数	23園	38校	20校	97.6%

主な活動内容

幼稚園	野菜・米栽培、きなこ作り、梨狩り、花壇作り、万古焼体験、竹馬作り等
小学校	野菜・米作り、収穫物の調理体験、とうふ作り、たけのこ掘り、しめなわ作り、餅つき
中学校	PTA との花壇作り、さつまいも等の栽培、伊勢型紙、搾乳体験等

- 幼稚園から中学校まで、発達段階や地域や学校の特色に応じた、ものづくりや生産体験を組み込んだ体験活動が進められています。
- 子どもたちが自ら考え、判断・選択して行動するといった自発性や自主性を育む視点での体験学習にしていくことがさらに必要です。

◆ 今後の方向性

- 文化・芸術体験の充実については、関係機関との協力のもと、学校・園に対し「芸術鑑賞教室」等の実施に役立つ情報を提供していきます。また、小学校においては、平成21年度から行っている「こころの劇場」を、中学校においては平成17年度から行っている「能・狂言教室」を、今後も継続していきます。
- 郷土資料館や博物館等と連携し、地域の歴史や文化について学ぶ機会を持ち、実際に見たり、聞いたり、体験したりするような活動を今後も進めていきます。
- 万古焼や四日市港等、「四日市ならではの地域資源」に触れる機会を教育計画の中に位置付け、体験したことをもとに自分の考えをまとめ、自分の言葉で表現する活動や地域や保護者・社会へ発信するような活動の推進に努めます。

2 高度なものづくり産業と連携した教育の推進

◆ ねらい

四日市市の大きな特長である多様なものづくり産業や、四日市市が協定を締結しているJAXA（宇宙航空研究開発機構）と連携した教育を推進することにより、科学への興味・関心を高めるとともに、社会とのつながりの中での学びを、生活の中で出会う課題の解決に主体的に生かしていこうとする態度の育成を図ります。

◆ 取り組み指標とその評価

取り組み指標	現状値 H27	H28	H29	H30	H31	H32	目標値
企業や JAXA の出前授業を受けたことがある学校数（校）	小中 16校	小中 24校					小中 50校

- 出前授業を受けた学校は年々増加しています。今後、さらに様々な機会をとらえ、本事業の意義や魅力について紹介し、より多くの連携授業が実施されるよう取り組みを進めます。

◆ 具体的な施策の現状と課題

企業19社（出前授業16社・社会見学14社・教職員研修15社・四日市子ども科学セミナー13社）とJAXAの協力により、連携教育を実施しました。

○ 連携授業

平成28年度は、企業、JAXA、合わせてのべ22回の連携授業を行いました。

- 企業との連携授業
実験や製品の紹介などが行われ、学校で学習する内容と実生活や実社会との関連を実感できる授業内容となっています。
- JAXA との連携授業
宇宙に関わる豊富な映像と最新の科学技術や情報をもとに、宇宙への夢が広がり、知的好奇心を喚起する授業となっています。また、理科分野における学習に加えて、体育科や総合的な学習の時間等、他教科等での実践も見られるようになってきました。

【企業との連携授業の様子】



（左）小学6年生
「バスボム（入浴剤）作り」

（右）中学3年生
「今の社会を支える半導体技術」

【JAXAとの連携授業の様子】



(左) 小学6年生

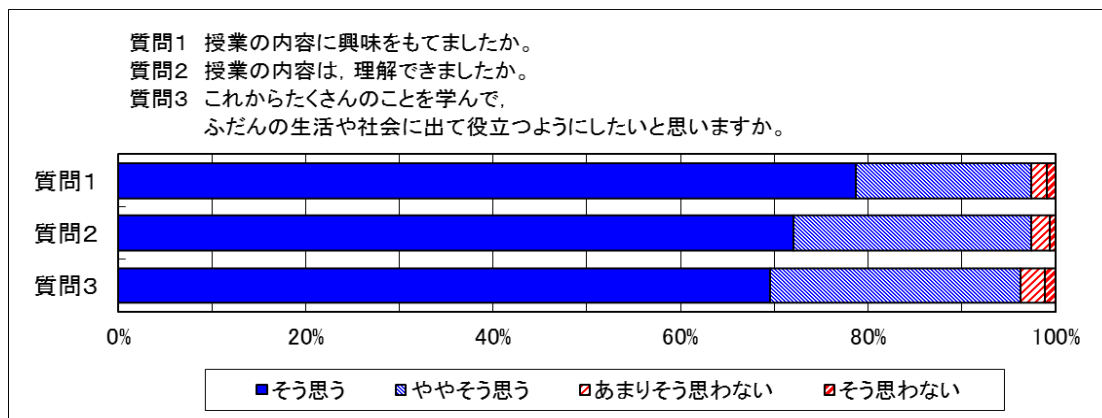
「月と太陽」

(右) 中学2年生

「動物の生活と生物の進化」

連携授業を受けた児童生徒のアンケート結果は以下のとおりです。いずれの項目についても肯定的評価が95%を超えており、多くの児童生徒が内容に興味・関心を持ち、学習意欲を高めています。

【連携授業を受けた児童生徒のアンケート】



○ 社会見学

企業との連携による社会見学は、その場所でしか体験や見学ができない工場や施設において、体感しながら学習します。平成28年度は、小学校を中心に、25件(21校)実施しました。

○ 教職員研修

平成28年度は、企業2社による2講座、JAXA 講師による1講座を実施しました。

・ 企業連携による研修

企業の持つ知識や科学技術などに触れ、理解を深めます。教員は、その経験を生かして、出前授業や社会見学の事前・事後の指導内容を充実させ、授業に取り組むようにしています。また、地域に根付いた地場産業を知る研修講座として萬古焼講座を実施し、若手教員を中心として実際に作陶を行う中で、萬古焼の良さや歴史について学びました。

・ JAXA 連携による研修

授業に生かせる学習教材とその授業例を学ぶとともに、宇宙を教材として、学習活動に取り入れた授業づくりについて実習しました。



(左)
企業連携研修
「合成ゴム作り」

(右)
JAXA 連携研修
「宇宙を題材とした理科授業」

○ 四日市子ども科学セミナー

毎年夏季休業中に開催し、「ものづくり」「環境」「宇宙」をテーマに、子どもたちが科学にふれ、科学への興味・関心を高める機会としています。

平成28年度は、「①環境のまち四日市～自然環境調査・体験」「②四日市をささえる企業等による実験・体験」「③講演会『日本のロケット開発と次世代ロケット』」「④こども水質調査隊」「⑤だいちの星座～電波反射器をつくって大地に星座を描こう」を開催し、約730人が参加しました。

「よい実験ができました。また、来たいです」「社会で今まで習ったことを役立てるようにしたいです」といった子どもたちの感想や、「大人も興味を持つことができ楽しかったです」「身近な企業がたくさんあり楽しかったです」といった保護者の感想が聞かれました。



自然環境調査・体験



企業等による実験・体験



だいちの星座

～電波反射器を作って大地に星座を描こう

◆ 今後の方向性

- 第3次学校教育ビジョンにおける基本目標の一つである「四日市ならではの地域資源を生かした教育の推進」のために、四日市市の産業都市としての特長や、産業の発展と環境保全の両面の取り組みなどを、積極的にアピールできるように取り組んでいきます。
- 企業・JAXAとの連携授業では、キャリア教育の視点を取り入れるとともに、講師が行う授業をより効果のあるものとするため、その前後の授業を工夫するよう働きかけます。教職員研修講座では、企業等の持つ教育資源を効果的に生かした指導ができるよう、教員自身が、その活用について考える講座とします。
- 「四日市子ども科学セミナー」においては、協力企業・団体の特長をアピールするとともに、ものづくりや環境保全に関する取り組みなど、その内容について検討し、新たな実験・体験の開発についても提案していきます。
- 四日市ならではの地域資源を生かした様々な取り組みについて整理し、企業・JAXAとの連携教育と合わせて、取り組みの充実の方向性を探っていきます。

3 公害対策モデル都市としての環境教育の充実

◆ ねらい

地域住民・企業・行政が一体となり、産業の発展と環境保全を両立するまちづくりを進めてきた本市は、現在、公害対策モデル都市として歩み続けています。その環境改善の取り組みについて学ぶことでよりよい未来の環境を考え、家庭や地域とともに継続的に環境保全に取り組む子どもを育てます。

すべての教育活動において、将来にわたり豊かな環境を持続する「持続可能な社会づくり」につながる環境教育を推進します。

◆ 取り組み指標とその評価

取り組み指標	現状値 H27	H28	H29	H30	H31	H32	目標値
「四日市公害と環境未来館」「四日市市立博物館」と連携した環境教育を推進した学校数(校)	小学校 38校	60校					全小中学校 (60校)

市内小学校5年生に加え、中学校3年生を対象に「四日市公害と環境未来館」の見学を実施し、市内全小・中学校において取り組みを進めることができました。今後も引き続き見学機会の確保に努め、「持続可能な社会づくり」につながる環境教育の充実を図ります。

◆ 具体的な施策の現状と課題

(1) 持続可能な社会づくりにつながる環境教育の推進

- 四日市公害と環境未来館・プラネタリウムと連携した取り組み
平成28年度は、市内全小中学校(60校)が「四日市公害と環境未来館」を見学しました。小中学校ともに、主に社会科や総合的な学習の時間と関連させて、学びを深めました。

具体的には、語り部さんの生の声や展示から四日市公害の歴史を知るとともに、市民、行政、企業など様々な視点から四日市公害について考えました。小学校では語り部による講演を全校で実施しました。中学校においては、「四日市公害裁判シアター」の視聴をするなど、公民分野で学習する司法の役割の理解を深めたりしました。また、学んだことを新聞などにまとめて発表するなど、保護者や地域に発信する活動を行っている学校もあります。

また、プラネタリウムと連携し、環境番組が視聴できる見学プランを設け、環境問題や自然科学への関心を高めています。

今後、見学プランなど、各学校の学習状況に応じたものとなるよう、検討・改善を進めていく必要があります。

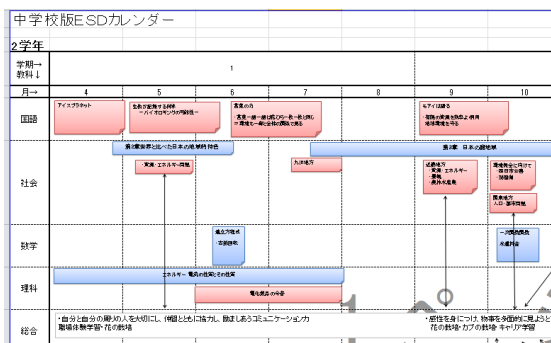


展示見学



語り部による講演

○ 四日市版E S D（※1）カレンダー（環境教育年間指導計画）の作成



中学校版E S Dカレンダー（例）

各教科や特別活動、総合的な学習の時間など、関連する学習内容を年間指導計画上に配列し、教科横断的な学習の構造を明確にしたE S Dカレンダーを全小中学校で作成しました。

作成にあたり、E S D講座を四日市公害と環境未来館と連携して実施し、E S Dについての理解促進を図りました。

(2) 地域とともに進めるよりよい環境づくり

多くの小・中学校で家庭・地域及び企業等と連携し、体験を重視した環境教育を展開しています。幼稚園では、栽培活動や生き物を育てる活動、ごみの分別を学び、生活に根差した環境教育を行っています。また、国際連合の「世界環境デー」（6月5日）を受け、この日を「学校環境デー」とし、市内全ての学校・園で、学校の実情や地域性を生かした取り組みを実施しています。今後、小中学校においては、ESDカレンダーにこれらの取り組みを位置付けることで、教科等の学習とつながりを持たせ、より学習効果を高めていく必要があります。

環境教育・環境保全活動を進めるにあたり、家庭・地域・企業と連携した取り組みを実施した学校の割合

	小学校	中学校
家庭	89%	91%
地域	92%	86%
企業	50%	27%

<具体的な取り組み例>

- ・ 地域の方や JA と連携した米作り体験や地域の川で実施した水生生物調査
- ・ ウミガメの保護学習に関する学習と産卵場所である吉崎海岸の清掃

◆ 今後の方向性

- 各学校による「四日市公害と環境未来館」「プラネタリウム」見学アンケートをもとに、さらに効果的な学習が実施できるよう、「そらんぼ四日市活用検討委員会」を年1回開催し、見学プラン等の検討・改善を行っていきます。
- 各学校で作成した四日市版E S Dカレンダーに基づき、教育活動をすすめていく中で、学年間や教科間の関連を図っていきます。また、「四日市公害と環境未来館」や関係機関と連携した夏季研修会を開催し、E S Dカレンダーを活用した環境教育について理解を深めていきます。さらに、企業との連携授業、地域の人材・地域の環境資源等を活用した学習を支援し、持続可能な社会づくりにつながる環境教育を推進していきます。
- 環境保全課等と連携し、「グリーンカーテン事業」や「四日市の企業から学ぶ地球温暖化防止対策講座」などの環境教育の取り組みを進めていきます。

※1 E S D・・・現在、社会に潜む課題を自らの問題と捉え、身近なことから取り組むことで、課題につながる新しい価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習(Education for Sustainable Development)